



立田山の変遷から見た多様性保全

(国研) 森林機構 森林総合研究所九州支所

熊本市の立田山は、地域の貴重な自然ですが、森林の様相はこの100年間に大きく変化しています。アカマツやヤマザクラのように希少となった樹木がある一方、オオシマザクラのように植栽後に野生化している外来の樹木も見られます。地域の生き物の多様性を保全するためには、希少種と外来種に着目した対策がきわめて重要と考えられます。

立田山の変遷

立田山は、江戸時代から保護されてきましたが、1940年代に伐採され、ほとんど草地になりました。その後、植林などによって森林化し、貴重な生き物を数多くみることができるようになっています。



写真-1 1953年頃の立田山



写真-2 現在の立田山の自然林

立田山の樹木

立田山の樹木は、変わり続けています。ツブラジイは今も昔も多く見られますが、以前より大きくなった一方、ナラ枯れによって枯損した枝や幹も見られます。

1977年にリストされた高木種のうち、アカマツやヤマザクラなどは、現在ほとんど見られません。代わりにオオシマザクラのように植栽後に野生化している外来種も見られます。



写真-3 ツブラジイの萎凋病(ナラ枯れ)



写真-4 植えられたオオシマザクラ

種類数の変化

立田山の植物の種類は、1977年の段階ですでに外来種が120以上あり、50以上が消失していたようです。現在の正確な種数は明らかではありませんが、もともと立田山に自生していた植物を保全するためには、外来種対策と希少種対策が重要と考えられます。

表-1 1977年にリスト#された立田山の自生の高木種

山本常喜・豊島昭和 (1977) 立田山の植物. in 農林省林業試験場九州支場, 三十年のあゆみ, 139-158.

状況	常緑高木	落葉高木
多	ツブラジイ	
普通	アラカシ・クスノキ・クロキ・ナナメノキ・ネズミモチ・ヒサカキ・ヤブツバキ	エゴノキ・コナラ・ゴンズイ・ナラガシワ・ヌルデ・ネムノキ・ヤマハゼ
やや少	アカマツ・カゴノキ・ヤブニッケイ	イボタノキ・クリ・ヤマガキ・ヤマザクラ
稀	イヌマキ・カクレミノ・クロガネモチ・サカキ・サザンカ・シリブカガシ・シロダモ・タブノキ・モッコク・ヤマモガシ・ヤマモモ・リンボク	アキニレ・イヌシデ・エノキ・オニグルミ・カジノキ・カラスザンショウ・コブシ・センダン・チシャノキ・ニガキ・ネコノチチ・ハネミノイヌエンジュ・ハリギリ・ハルニレ・ミズキ・ムクノキ・ヤマグワ

図-1 1977年リストをもとにした立田山における維管束植物の種類数の変化

